



同友しずおか

私の逸品

ドライブレコーダーで企業のリスク管理に貢献

(有) **ゼ** **ロ**

詳細は **WEB** で!

(三島支部)

静岡同友会

検索



静岡県経済産業部との意見交換会

持続的に成長・発展する地域社会の実現に向けて県へ提言

2015 中同協組織強化・広報・情報化全国交流会

組織強化と情報創造の仕組みづくりを学ぶ

特集

会員訪問記

小木曾 順一氏 一般社団法人富士障がい者支援ネットワーク・富士支部 鈴木 加津也氏 ベストコーチ・浜松支部

シリーズ

経営指針 ～激動の時代の羅針盤～ 秋山 和孝氏 (株)アイソー・沼津支部

その他 主な内容

経営労働問題全国交流会 in 鳥取、東部ブロック役員研修会、御殿場30周年記念事業、支部だより、新入会員紹介、時評、友達の輪、イントロin伊東

平成27年度 重点課題

- ① 経営指針を成文化し、社員との共有・実践で、時代に対応する強靱な企業づくりを進めます。
- ② 中小企業憲章推進の運動を広げ、中小企業振興基本条例制定をめざします。
- ③ 元気な企業と地域をつくるため、会員増強目標1200名を早期に達成します。

持続的に成長・発展する地域社会の実現に向けて県へ提言

静岡県経済産業部との意見交換会

8月19日（水）午後3時より、同友会会議室において静岡県経済産業部との意見交換会が行われました。この会も回を重ね、昨年からは形式的なものに終わることの無きようにとわが同友会会議室に来ていただき、1000円会費での懇親会を併設し、率直かつ本音の意見交換をする場となってまいりました。静岡県からは篠原経済産業部長はじめ16名、同友会からは副会長、正副代表理事、山本義彦顧問ら15名が出席しました。



静岡県経済産業部長
篠原 清志氏

青山広報情報化委員長の司会で開会挨拶の後、藤原代表理事と篠原経済産業部長がそれぞれ挨拶しました。篠原部長は挨拶の中で、中小企業の活性化が重要であることを強調して

おり、こうした企業人との意見交換を重視していることが十分伝わってきました。その証拠にこの会に出席していただいた県の職員は、昨年にも増して総勢16名に上りました。

「持続的に成長・発展していく地域社会を実現していくための静岡県への要望」として同友会からは3点にまとめて提言しました。一つ目は静岡県中小企業振興基本条例の制定、二つ目は県のイニシアティブで県下市町の中小企業の産業分布と経営実態・要望項目についての悉皆調査、そして最後に11月14日開催の全県経営フォーラムへの参加要請です。

意見交換では、同友会からは政策要望について私が述べ、6月期の景況調査結果を望月政策委員長から、自社・業界動向を新任の箕、河合両副代

表理事から報告しました。景況調査では原材料・仕入価格の上昇を販売価格に転嫁し切れていない状況を伝えながらも流通・サービス業を中心に業況が回復しつつあることを報告しました。箕氏（有アサギリ）からは汚泥を利用した有機肥料製造・販売を通じた環境問題への貢献と今後の展開を、河合氏（板橋工機株）からは付加価値の高いオーダーメイド機械メーカーの取組みと補助金の利活用について提言がありました。

その後、県から望月理事、岩城理事をはじめ、松下商工振興課長ら県側の報告などがあり、活発な意見交換が続きました。鈴木副代表理事のまとめと閉会に続き、さらに5時から酒を酌み交わしながらの意見・情報交換が続きました。年とともに本音を言い合う雰囲気が生まれ、今後もこのような機会を重ね県の産業経済の発展に貢献することを確認して会を閉じました。



静岡同友会代表理事
藤原 博美氏

知久 正博氏（代表理事・有知久太田会計事務所）

参加者感想

以前参加した時は、県庁会議室における対面形式で堅い印象がありましたが、昨年より同友会事務局での開催となったとの事。対面形式の交流会の後に簡単な懇親交流会がもたれ、部長以下担当部局の方々と具体的交流が図れました。とかく行政と民間の交流では、表裏関係のイメージが強調されがちですが、今回の意見交換会では、行政職員も日頃は民間人の立場から知識を吸収し、行政に反映させる努力を惜しみなくしていることが認識できました。

当方からの主な要望は皆さんご承知の「中小企業振興基本条例制定に向けたアクションプログラム」ですが、行政側は現在、様々な中小企業施策

を実施しており、認識はされているものの、本条例制定に向けた具体的工程表は作られておりません。やはり首長のトップダウンが最善策か、とも感じました。我々中小企業家同友会に所属する企業がますます発展・繁栄し地域の核となること、中小企業振興基本条例の制定に向けた具体的プログラムを作成し発信すること、そして他の団体とも連携した大きな波を創り上げてゆくことが、条例実現への近道だと思います。

今回の意見交換会はお互いに忌憚ない意見交流ができ、有意義であったと思います。今後も継続的・定期的に交流すべきと感じました。

井上 齊氏（ワシロック工業株・静岡支部）

組織強化と情報創造の仕組みづくりを学ぶ

8月26日～27日 アルカディア 163名

5年連続で最高会勢を更新してきた全国会員数は、2015年度も順調に推移し4万5千社に迫る勢いです。昨年度、258名純増の千葉を筆頭に、3桁増の愛知や北海道は、企業づくりと地域づくり、同友会づくりを一体として組織強化を果たし、会員拡大の成果をあげています。実践事例に学ぼうと、全国各地から163名が参加。一泊二日の議論を通し、会の使命、ビジョンから展望する組織活性化について学びました。静岡から知久代表理事、藤原代表理事、青山広報情報化委員長が出席し、静岡同友会早期1200名の達成に向けて、強い決意を固めることができました。

量は質を保証する

鋤柄修中同協会長の挨拶で交流会が始まりました。続いて、広浜泰久中同協幹事長が問題提起を行いました。中同協創立50周年（2019年）にむけての展望、増強の意義を語ると共に「5万名を達成しよう」と、千葉同友会の躍進について触れながら報告しました。増える組織、減らない組織への課題は「強み」を活かすことにあります。強靱な企業づくりに繋がっているから強い組織をつくることができます。地域づくりへの期待に応えているから、具体的な努力をしているから、同友会は強いのです。この強みを役員がどう活かすにかかっています。



鋤柄 修 中同協会長の挨拶

地域に果たす同友会の役割

千葉同友会は、5年間で450名増、6つの新支部を作り、同友会の空白地域を埋めています。外房は過疎化が進んでいますが、同友会のうねりが地域の共感を呼んでいます。福島は、2011年3月11日に壊滅的な被害を受けましたが、陸前高田地区では、同友会会員企業が全社操業を再開し、さらに会員が増えていると言います。地域に根差し

た活動が評価された結果ではないでしょうか。組織強化における会財政・財務の強化の課題も提起されました。

各県の総合力を高める

バズセッションでは「会員増強の戦略的な展望」をテーマに話し合いました。増強は各県の総合力であり、具体的な行動をどう起こしていくかが重要で、将来ビジョンのもと計画すべきであるとの結論に至りました。夜は、千葉、東京、埼玉、神奈川の各地の例会への参加となりました。私は、墨田支部の例会に出席しました。若い会員が多く活気があり、ゲストの方がバズセッションで「こんな会があったなんて知らなかった、入会します」と宣言しました。懇親会では司会者が、全員の近況報告を促し、例会の第二部として機能、沼津支部の活動とダブって見えました。



バズセッションの様子

翌日は広報情報化についての意見交流で、組織・広報・情報は、三位一体で活動すれば大きなうねりになり、情報連携ネットワークを構築することによりPDCAを廻すことができます。委員会は相互に協働して、同友会運動を広めていくことが大切だと確信を深めることができました。

藤原 博美氏（株）日本ベルト工業・沼津支部

鳥取における地域再生の萌芽と今後の課題・期待

人口57万人、日本で一番小さい県・鳥取県の米子で、経営労働問題全国交流会 in 鳥取が全国から約200名の同友会会員の参加の下、開催されました。中同協経営労働委員会の4大活動方針に基づき、「労使見解の実践と普及」(第1分科会)、「経営指針成文化・実践運動の推進」(第2分科会)、「企業変革支援プログラムの活用と普及」(第3分科会)、「人を生かす経営実践企業を増やすための労使における今日的課題の検討(労働環境整備)」(第4分科会)をテーマとした4分科会が設けられました。

私は第2分科会、「経営指針成文化が地域を残す～日本一小さい県のお金だけではない『地方創生』」に参加しました。大変珍しい、鳥取同友会の中尾大介氏(㈱サイン技研)・播間光広氏(まほろば税理士法人)の掛け合い(漫才ではありません)による発表でした。

人口減少、限界集落等々の問題を抱えた縮小社会。その最前線・鳥取県にあって、鳥取同友会は現在会勢136名にも拘わらず、経営指針成文化率34.5%と全国第1位です。地域愛に溢れる会員のこ

の高い成文化率により、利益を上げ雇用を創造し、その結果消費を増やし、地域再生の好循環を回すことで同友会運動が地域と更につながり、最終的に地方創生につなげることが出来る、とのことでした。

しかし、鳥取同友会ではまだ中小企業憲章・中小企業振興条例制定の取り組みが行われていません。せっかく同友会の仲間である中小企業各社が雇用を創造しているにも拘わらず、地域全体を巻き込んだ振興条例制定運動のなかでその受け皿になる取り組みに繋がっていないことは残念です。静岡では、条例制定が既に為されている自治体もありますが、その実践のための運動主体が曖昧で、同友会も含め受け皿がない状態のように見受けられます。それに対し、鳥取県では、同友会が中心となり指針に基づく企業づくりを通して地域再生の萌芽が出てきているのです。その動きを行政、地域の人たち、関係団体などを巻き込んだ条例制定運動に繋げ、地域再生の手本にまで育てて頂きたいと切に感じました。

望月 宣典氏(清水クレジット(株)・静岡支部)

東部ブロック役員研修会

8月6日(木)、富士ロゼシアターにて、東部ブロック役員研修会が開催されました。本研修会では、佐野譲二氏(㈱和泉運送・県副代表理事)・河原崎信幸氏(シンコーラミ工業(株)・県副会長)が、同友会の歴史や自社における同友会理念の総合実践、同友会における役員とは何かについて、実体験を交えながら報告しました。

—参加者感想—

佐野譲二氏と河原崎信幸氏による報告を通じて、同友会の役員の在り方について学びました。理論を大事にする佐野氏と、感性を大事にする河原崎氏。スタイルの違う両者の報告を聞くことで、同友会の奥深さを知ることができました。

バズセッションでは、まず報告で出てきた「(民主的)ワンマン」という概念についての議論がありました。様々な意見が出ましたが、「人の話を全く聞かないような独裁者では良くないが、ケースバイケースで経営者が独自に判断しなければならない場面はある」という認識では一致していたと思います。そういった決断を、常に全責任を負う覚悟で下さなければならない経営者にとって、何にも代えがたいのが忌憚のない忠言です。同友会にいと、時には社内でももらえないような耳に痛い忠言をもらえることがあります。



佐野 譲二氏

これも同友会の素晴らしいところなのだ、この議論を通じて改めて感じさせられました。

本題の「自分にとっての同友会とは?」という問いに対しては、自己を成長させることができる場所という意見が多く出ていました。ここに、同友会で役員をやることの意義が詰まっているのではないのでしょうか。なぜ役員を引き受けるのか?それは、責任を全うすることでより大きく成長できるからだと思います。私自身も、家の事情で学生からいきなり経営者となり、社会人経験が乏しいまま四苦八苦していた10年間よりも、同友会で役員を引き受けてからの1年半の方が成長できたような気がします(恥ずかしい話ですが・・・)。役員をやらせてもらって良かったと再認識させられる研修会となりました。

佐野 純也氏(㈱山十佐野製作所・富士支部)



河原崎 信幸氏

御殿場支部30周年記念事業 進化する経営指針

8月5日(水) エピスクエア 参加51名

今年度、支部設立30周年を迎えたわれわれ御殿場支部は、30周年のテーマを「未来へつなごう30年の想い」～歴史に感謝、仲間へ感謝、地域へ感謝～として、7月から10月までの4ヶ月間、4回に分けて記念事業を行っております。それぞれの事業ごと、テーマのサブタイトルにある「歴史に感謝」、「仲間へ感謝」、「地域へ感謝」に特化した事業を行い、多くの皆様の支えで支部設立30周年を迎えたこと、そしてわれわれ中小企業が支えられていることに感謝していきます。

支部が誕生日を迎える7月例会は、「歴史に感謝」として、これまで30年の歴史を築いていただいた諸先輩方の皆様に改めて感謝をしました。9月例会は「地域へ感謝」として、日頃お世話になっている地域の皆様楽しんでいただきながら、未来を背負う子供たちに様々な職業体験を通じ、地域で活躍する中小企業に関心を持っていただきます。10月例会では、われわれ経営者を日頃から支えてくださっている家族や、社員の皆様、そしてそのご家族の皆様へ感謝するため、御殿場市内で開催されるサーカス公演を貸切り、楽しんで頂きます。

記念事業第2弾となる8月例会は「仲間へ感謝」

—参加者感想—

遠藤科学(株)は、1947年の創業より科学機器の販売を中心に事業展開し、東海、関東地域を主要販路に公的研究機関から自動車、製薬、食品など取り扱う機器が多岐に亘っても、技術力の高さや、専門性に長けた社員が多数いるといった強みで最先端のモノづくりをサポートしている、全国でもトップクラスに数えられる科学機器商社です。

創業者は会社の安泰と社員の幸せを理念に掲げ、先代は創業の想いを成文化し、経営方針を立て、今日の同社の経営指針は経営目的～経営理念～経営方針～経営計画の4階建てと高度に進化しています。



遠藤 一秀氏

として、同友会の学びの基本に立ち返り、会員の報告から学ぶ例会を企画しました。報告者には、静岡県中小企業家同友会会長、遠藤一秀氏（遠藤科学(株)）をお迎えし、『進化する経営指針』～同友会活動のなかで経営指針はどのように変化したのか～と題した報告のあと、バズセッションを行い経営指針のあり方と現状の自社の立ち位置を見つめなおす例会が開催されました。

支部設立30周年実行委員長

勝又 大介氏（南堀江自動車整備工場・御殿場支部）

“社員の幸福追求”が経営目的であり、利益還元、終身雇用、安定収入、風通しの良い職場環境の整備を約束すれば、社員は自ずと楽しく意欲的に働き、経営理念、経営方針、経営計画の共有は図られる～そこから自立型社員が誕生し、社員の社員による社員のための会社になっていく～この好循環の繰り返しを躍進し続ける遠藤科学(株)の源ではないのでしょうか。

今宵、同友会型実践企業をまた一つ学び、改めて「仲間へ感謝！」と唸ってしまう私でした。

遠藤 直樹氏（(株)マルエ・御殿場支部）

支部だより

沼津例会

ぐり茶と共に生きる「明るい未来」の為に

8月19日(水) VILLA EFFE 参加62名

お茶製造・販売業を営んでいたお父さんの急逝により、大学4年生で家業を継ぎ、試行錯誤を繰り返しながら5年目を迎えた鈴木崇史氏（ぐり茶の五十鈴園）からの「実体験と悩み」の報告でした。

不足する経験を補う努力、家族経営ならではの悩み、赤字体質からの脱却、販路拡大への挑戦など「茶もみ師から経営者へ」と変わろうとする意欲に溢れた内容でした。

家業を引き継ぎ4代目となる鈴木氏のぐり茶に対する思い入れと、お茶と自分を支えてくれる方々への感謝の思い。その一方で変化し続ける経営環境のなかでの、鈴木氏の悩みや挑戦を語ってくれました。

これほど具体的に熱い報告を聞いたのなら、熱く応えるのが私たちの仲間です。異業種で、広範囲の年代の集まりだからこそ出会った「同じ悩みを持つ人」、「既に解決に向けて着手をしている人」が混ざり合いました。

また、今回富士宮支部より参加した全県経営フォーラムのキャラバン隊から「地域と共に生きる」と言うキーワードを貰ったことで、グループ討論では「このテーマは誰の課題か?」「その課題は自分一人で抱え込む課題なのか」等の観点がより一層、明確になりました。

笹沼 幸雄氏 (㈱イーコン・沼津支部)

富士例会

同友会で学んだわが社の“人間尊重経営” 俺に教えてくれ!“人間尊重経営”って何だ?

8月20日(木) 富士交流センター 参加31名

建設業を営む松本工業(株)は、今期で59期目を迎えます。報告者である佐藤義幸氏は、平成8年7月に佐藤家に婿入りし、同社に入社。しかし平成9年以降、業況は悪化の一途を辿ります。同社は業績悪化の中、会社存続の為、ピーク時には60名以上いた社員を、希望退職やリストラにより半数以下にまで減らします。その後、近年に入り業況が回復しますが、今度は人手不足に直面。佐藤氏は、それまで「人＝コスト」と考えていた事を悔やみ、社員と向き合い一人ひとりの能力を引き出す経営を目指そうと決意します。そこから「果たして人間尊重経営とは何だろうか」と自他に問う報告でした。

バズセッションでは、会員の各々が自社の社員との向き合い方、そして自分が考える人間尊重経営について話し合い、同友会の精神の根底にある「人間尊重経営」について学ぶ事ができました。さらに今回は、「同友会の報告は、カッコイイことばかりを話すのではなく、失敗など全てをさらけ出し問題提起に繋げる形でも、学びの多い有意義な例会になる」と気づく事のできた例会でした。

渡邊 正仁氏 (㈱丸之工務店・富士支部)



連載～激動の時代の羅針盤～ 経営指針 第52回

指針を創る会に関わり、早12年が経ちました。「10年偉大なり」と言われますが、果たして自社は変わったかと己に問うと、手応えがなく少し気恥ずかしく思います。さて、どちらかと言えばこの会では歯に衣着せず、ズバズバと本音で指摘するのが私のスタンスになっています。それは、各々の問題が自社とは全く遊離しているものではなく、故に一層真剣に熱くもなるのです。もちろん厳しさの中にも相手に対する思いやりや願いは忘れません。ただ、近年はそうしたお互いの事を真剣に考え、議論することが薄くなってきているように感じます。以前に比べ、自社の悩みなどをあからさまに打ち明けることが減ったように思います。今の時代、スマートで格好良い生き方が主流だからでしょうか。私が同友会に入会した当時は、例会報告などの後でも、先輩諸氏からかなり厳しいご指摘を頂きました。そのお陰で何くそと闘志を駆り立てられたものです。ギブ・アンド・テイクという言葉の通り、投げ掛けがなければ人の心を叩くことができず、求めるヒントも生まれません。同友会らしく、泥臭く本音で語り合うからこそ自社の大きな課題が見え、解決の糸口が掴め、そしてその先の、同友会3つの目的達成に繋がるのではないのでしょうか。

自社に話を戻すと、大きくはなくても着実に前進しているように思えます。モノづくりの中にサービスをといた戦略が少しずつ功を奏しているように感じるのは、お客様の問題解決のお手伝いをと、小回りの利く小さな仕事で、決してそれだけでは終わらずに次の仕事へと繋がっています。そうした意味でもかつての1社依存の体質から抜け出たとも言えるでしょう。ともかく、指針は成文化するだけでなく、実践に移していかなければ少しも会社は変わりません。創る会メンバーの成長と、会社の大きな発展を願い、明日の静岡同友会の原動力となることを期待します。

経営指針を創る会1期卒業生
秋山和孝氏 (㈱アイソー・沼津支部)

職員の想いが支える、障がい者支援の場

一般社団法人富士障がい者支援ネットワーク
理事 小木曾 順一氏 (富士支部)

事業内容：社会福祉（授産品販売、野菜販売）
設立：2012年5月
従業員数：正規8名
入会：1986年4月
所在地：富士市松岡1515番地の24

社会貢献への想いから、法人立ち上げに参画

一般社団法人富士障がい者支援ネットワークの理事である小木曾順一氏は、元々は和菓子屋の二代目。その当時から同友会に入会していました。しかしある日、火災により工場が消失。五十歳を過ぎていた小木曾氏は再開を断念しますが、富士支部会員の皆さんの励ましを受け、同友会に残ります。しばらく運送業に携わった後、富士障がい者支援ネットワークの現代表理事である芦澤晴己氏から、同法人の立ち上げのお誘いがありました。社会貢献に強い想いのあった小木曾氏は二つ返事で引き受け、2012年に発足。同年に地域活動支援センター「夢の丘工房」、そして翌2013年に、就労移行支援事業所・就労継続支援B型事業所「夢の杜」を開設しました。

「夢の杜」を支える人達の強い想い

事業所利用者の中には、始終目を離せない方もあります。そのため、職員全員であらゆる情報を共有し、時間で人が入れ替わっても、利用者の変化等に対応できるようにしています。情報共有には長い時間を要するためとても大変なのですが、職員が皆「この業務に携わりたい」という強い想いを持って集まっているために成り立っている、と小木曾氏は言います。



小木曾 順一氏 (左) ・
芦澤 晴己氏

様々な形で同友会の仲間が支えに

小木曾氏は「今の仕事の中で、同友会の仲間から有形・無形問わず様々なサポートを貰っている」と話します。また、障がい者雇用に対する理解を深める障がい者問題委員会の存在や、言い合える仲間の良さが会にある、と会の魅力について語ってくれました。さて、職員の想いに支えられている「夢の杜」ですが、「情報共有をはじめ彼らの負担を何とか軽減したい」と小木曾氏。悩みを共有し、ヒントを実践して自社変革に繋げていく同友会の中で、職員、利用者やそのご家族の皆さんにとって「良い会社」に近づけていくことと思います。

社長の悩みをズバリ解決！「会社のお医者さんベストコーチ」

ベストコーチ
代表 鈴木 加津也氏 (浜松支部)

事業内容：経営コンサルタント（潜在能力開発のための営業研修「厚労省助成金利用可」、リーダーシップ・コミュニケーション研修、経営理念策定サポート）
設立：2009年2月 従業員数：0名
入会：2014年10月
所在地：磐田市一言2831-3
ベストコーチURL：http://profile.ameba.jp/bestcoach/
ミラクル・ハピネス浜松校：http://profile.ameba.jp/uebestcoach/

成功、独立、挫折、そして気付き

不動産会社でトップの成績を上げ、37歳の時「38歳で工務店を興した父に負けまい」と不動産業で独立。しかし変な信念のために自らの強みやチャンスも生かせず低迷し、住宅会社へ再就職。この頃を鈴木氏は「亡父の亡霊に急かされて起業したが、生活位できるだろう、の頭しかなかった」と振り返ります。この挫折で、経営にはセールスだけでなくマーケティングやマインドが不可欠と気付きます。新会社では店長を務め、万年最下位の店を100店抜きトップ10番台前半の店に再建。この成功を「潜在能力を引き出してくれた社長のお蔭」と語ります。

自身の経験を元に、顧問先を成功に導く

2009年、対面販売業種の経営コンサルタントとして

「ベストコーチ」をスタート。

これまでに経験した様々な成功や失敗をノウハウに変え、顧問先工務店や建設会社の受注件数や売上の大幅な拡大に貢献してきました。そして2014年、所属団体である中央建設企業経営事業協同組合連合会の教授会メンバーに薦められ、同友会に入会しました。



鈴木 加津也氏

「社長の夢や目標の達成を手伝いたい」

鈴木氏は自社の使命を「会社の目標達成をサポートするために社長や従業員の潜在能力を引き出す事」と語ります。達成できない理由として、ビジネスの本質理解不足、ノウハウ、マインド（考え方）の間違いを挙げ、これらを改善し業績の改善を支援している、との事です。とりわけマインドについては、ネガティブな感情や思い込みを解除し目標達成を加速する方法を教える「ミラクル・ハピネス浜松校」を開講し、個々の力の開花を支援しています。最後に鈴木氏は「自らの使命に目覚め、社員や顧客を豊かで幸せにする会社経営に当たって頂ければ最高に幸せ」と語ってくれました。

取材：須山 由佳子氏 (㈲キャリアアップ・浜松支部)

新会員のご紹介 (敬称略) 会員数970名

氏名	社名・事業	所属支部	紹介者	氏名	社名・事業	所属支部	紹介者
もちつき 望月 知洋	エムスタイル リユース・リサイクル・金融業	富士宮	宇佐美健介	くぼ たまつたか 久保田松孝	葵会計事務所 上場会社労働組合監査、学校法人・公益法人・一般会社の税務、会計、資産相続・遺産	静岡	事務局
やまだ 山田 のりゆき 法之	メガトレンド情報技術(株) 受託ソフトウェア開発、ホームページ作成、コンピュータシステム開発	沼津	長岡 善章	また ゆか 牧田 豊	牧田社会保険労務士事務所 人事労務管理、年金相談、医療労務管理、労働社会保険手続	静岡	原口 富夫
あべ 阿部 ゆういち 勇一	(有)あべ組 道成工事、道路工事、コンクリート・型枠工事	静岡	友田 国彦	おひら ゆきひろ 尾平 幸宏	(株)ユーモア 就労継続支援A型事業、通所介護・介護予防通所介護、放課後等デイサービス	浜松	永井 忍
おおき 大木 まさひろ 雅弘	(株)大木 小売業、販売	静岡	太田 誠				

※新会員の写真はe.doyu「ユーザ名簿」にアップします。e.doyuからのご確認をお願い致します。

時評 脳を変える心のあり方 ～「偶有性」と「無記」～

脳を何時までも、活性化したいと思うこの頃です。そのような折、小松ゼミ（“共学ゼミ”と改称）のメンバーである増田立義さんの推薦図書『脳が変わる生き方』（茂木健一郎 著、2013年、PHP文庫）に出会いました。この書によれば、脳を活性化させる一番の方法は「感動」することだそうです。感動して自分の心を揺り動かしてこそ、脳が活性化するので。

そしてもう一つ、脳を活性化させるには「偶有性」が必要です。偶有性とは必然性の対義語で、「その存在が必然ではないが、それが存在するとしても、そのゆえに、いかなる不可能も生じてこないもの」のことです。人生においても同じで、「人生はこうだ」と決めつけず、何が起きるかかわからないという偶有性を楽しめれば、人生も又楽し、ですね。どんな事が起きるのか、起きないのかとワクワクした気分です。失敗して後悔するより、どうすれば失敗せずに済んだかを考えることが脳の活性化につながります。決まりきった出来事は、脳の活性化になりません。脳を活性化するには、偶有性を楽しむことです。

また、この書のなかでとても難しい難題を突き付けられたのが「無記」というお釈迦様の思想でした。これまで私は「言わなければ伝わらない、聞かなければ理解が深まらない」と思い込んでいました。しかし「無記」では、重要なことはあえて言わない。自分の意見をすべて吐き出しては、相手の考え方が固定化してしまいます。考え方が固定化したらその後の進歩が望まれません。他人の心を全部把握することはとてもできないから、その人が物事にどう向き合い、どう考え、どういう言葉を発するかを考えたとしても、でもあえて根幹に関わるようなことは言わないことです。それが「無記」の考え方です。

新しく知った「偶有性」と「無記」の言葉と共に、些細なことにも「感動」を覚える心根を持ちたいと思います。

山田 喜久子 (三和室内装備(株)・静岡支部)

友達の輪 第18回

こんにちは、静岡支部の(株)山崎製作所、山崎かおり社長からバトンを受けました、沼津支部の津賀由布子です。山崎さんとは3年前に受講した「経営指針を創る会」で出会ってからのおつきあいです。1泊研修で自分の理念と向きあい悩んだ時も、同じ女性経営者として親身に相談に乗ってもらいました。

その後、産休を経てこの春仕事に復帰し、子育てと仕事の両立の難しさや今後の方針で一人悩む日々の中飛び込んできたのが、山崎さんのFBによる投稿でした。「5年計画の新事業が前倒しで実現している、無理だと思っていた展示会へ出展する朝を、今日迎えた」というような内容でした。「奇跡の朝がきた」とはじまったこの投稿を読んで、すごく気持ちが震えたのを覚えています。社員の飯のタネを作るためにと考え始めた自社商品開発の道を、着実に歩んでいる姿に感動と勇気をもらいました。

我が社サンディオスも5年後を見据えた事業計画をスタートさせればばかりです。こうした刺激を受け高め合える仲間に出会えるのが、この同友会だと思います。これからも同友会を通じて多くの経営者の方と共に学び成長していきたいです。

バトンは榛原支部の大好きな仲間のひとり、笑顔が素敵な(有)リアス、増田崇さんにつながります。

津賀 由布子氏 (株)サンディオス・沼津支部



同友会イントロセミナー IN 伊東

8月25日(火) ひぐらし会館 参加22名

三輪雅則氏 (株)マルイチ・榛原支部) による報告でした。幼少期から事業を継ぐと決めていた三輪氏ですが、両親の相次ぐ急逝により28才で社長に就任します。その後、同友会に入会し、創る会を受講。「何のための経営か」と、とことん自分と向き合う過程で、経営者としての覚悟が決まっていきました。機械設計・製作、太陽光発電を扱う同社は、女性も多く明るく雰囲気の良い職場です。「理念の共有によって、社長の顔を伺うのではなく社員達が自ら考えて仕事に臨んでくれている、その結果」と、自社の魅力の根拠を語ってくれました。



三輪 雅則氏

同友会 三つの 目的

1. 同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。
2. 同友会は、中小企業が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。
3. 同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。